

文教いしかわ

BUNKYO ISHIKAWA

石川県文教会館 2022.2

No.85



－特集－

1 頁：自分らしく生きるために ～学びを活かした社会参加を～

石川県教育委員会事務局 生涯学習課長 清水 茂氏

2・3頁：特集 「東京オリンピック・パラリンピックを振り返る」～スポーツの力・人間の力を忘れない～

石川県県民文化スポーツ部 次長 田井 友章氏

自分らしく生きるために ～学びを活かした社会参加を～

石川県教育委員会事務局 生涯学習課長 清水 茂



昨年コロナ禍の中開催された東京2020オリンピック&パラリンピックでは、競技はもとより、開閉会式等を含めた運営全体に、大会ビジョンの1つとしている「多様性と調和」を目指すためのメッセージが発信されていました。また、人

種や性別、年齢、障害の有無に関わらず、懸命に競技に臨むアスリートたちからは、自分らしさを発揮できる素晴らしいさと多くの方々と感動を共有できるスポーツの力を改めて感じさせていただきました。

当然のことながら、この地球上に自分という存在は一人としかいません。唯一無二の存在価値である自分に対し、本来ならば自信を持ってしかるべきなのですが、他人の眼を気にして自分らしくできない。自信を持たずに、周囲の意見や行動についぞ合わせてしまう、いわゆる同調圧力に屈して悶々と過ごす人びとが日本人には多い気がします。それを裏付けるかのように、青少年の自己肯定感他国と比べて低いという統計データもあります。

では、いかにして自分への自信を育てていくことができるのでしょうか。私は、その大きな支えとなるのが学びによる力だと考えています。幕末の思想家、教育家であった吉田松陰の語録に学びの本質をつくものがあります。「学は人たるゆえんを学ぶなり」学ぶのは知識を得るためでもなく、職を得るためでもなく、己を磨くため。世の中の為に己がすべきことを知るため。という意味があるそうです。

学びというと堅苦しく思われがちですが、本来学びとは楽しいものです。そして、人間にはだれしも学びたいという根源的な欲求があり、させられる学びでなく、自分が欲する学びを存分に行うことで自らの成長が実感でき、自分への自信が深まるものと考えます。

社会教育や生涯学習が提供する学びの機会はまさにそこに住む人たちの主体的な学びをつくるものであり、県とし

ても、「いつでも、どこでも、だれでも」学べる環境作りをいっそう進めていきたいと考えています。

昨年度末に改定した、第3次石川の教育振興基本計画においても、「生涯にわたり学び続ける環境作りの推進」を引き続き基本目標の一つとして掲げました。めまぐるしく変化する社会において、県民一人一人が豊かな生涯を送るために必要な知識や技能はこれまで以上に多岐にわたり、その内容も高度化していくことでしょう。多様な県民の学びのニーズにも応えるべく、県が30年以上にわたって開催している県民大学校においても、市町をはじめ様々な教育機関ともいっそう連携を図り、講座内容の充実にも努めてまいります。加えて、コロナ禍で加速したICT化を受けて、講座の動画配信等、新たな学習サービスが創出できるようさらに検討を進めてまいります。

人は学びの楽しさを感じれば、学びを続けようとし、そして、学びたいことを学ぶ時間を持ち続けることは、自分らしい豊かな人生づくりにつながります。

ただ、謙虚さを美德とする国民性なのか、その学びを自分の中だけに収めてしまう自己完結型の人が多いのも確かです。社会を活性化させる観点からすればもったいない気がしてなりません。学びを深めるためには、発信すること(アウトプット)が近道とも言われます。惜しむらくはその学びを社会に活かすことができたなら、自分自身もいっそう輝くはずで、私の知人で、趣味の講座で学んだ手話を活かそうと、実際に聴覚障害者の方々の集まりにボランティア参加している方がいます。交流する中で、これからの生き方を含め学ぶべきことが多いと楽しそうに話してくれ

ます。このように、自身の学びを社会の役立つものに発展させていくことで、自分も社会も潤う学びの好循環が生まれます。県教委としても、市町や社会教育関係団体等と連携し、学習の成果を公民館等の社会教育施設や学校などで活かす機会づくりにいっそう取り組んでまいります。